

短報 Short Report

広島県フロラ覚書 (11) ウスキムヨウラン *Lecanorchis kiusiana*,
ツクシゼリ *Angelica longiradiata* var. *longiradiata*, オクシモハギ *Lespedeza davidii*

世羅徹哉¹⁾

Memoranda for the Flora of Hiroshima Prefecture (11) *Lecanorchis kiusiana*, *Angelica longiradiata* var. *longiradiata*, *Lespedeza davidii*

Tetsuya Sera¹⁾

Summary

The author reports the second habitat of *Lecanorchis kiusiana* Tuyama and the first records of *Angelica longiradiata* (Maxim.) Kitag. var. *longiradiata* and *Lespedeza davidii* Franch. in Hiroshima Prefecture.

ウスキムヨウラン (ラン科)

ウスキムヨウラン *Lecanorchis kiusiana* Tuyama は、関東以西の本州太平洋側、四国、九州に分布する多年生菌従属栄養植物で、中国地方では、山口県（山口県自然保護課 2019）と広島県（世羅ほか 2023）で自生が記録されている。本種は、広島県内に記録がある同属のムヨウラン *L. japonica* Blume, ホクリクムヨウラン *L. hokurikuensis* Masam. とは、開花時の茎の高さが 15 cm 程度と小型であること、唇弁中央部に白色長毛が密生してその先端が紫色で微小な突起があるなどの特徴で区別される（図 1A, B）。また、広島県での開花期が上記の 2 種と比べて半月から 1 カ月ほど早いのも本種の特徴と思われる。広島県内における本種の発見の経緯は既に報告した通りで、呉市安浦町にある常緑広葉樹林内に生育している（世羅ほか 2023）。この場所では、発見された 2020 年から 3 年間、生育数にはほとんど変化はない。通常の薄茶色花の個体のほかに、発見当初から 1 株だけ確認されていた黄花の個体も同様に 1 株のみである（図 1C）。著者は、新たな生育地を探すため、2022 年に呉市から東広島市にかけての沿岸部にある同様の常緑広

葉樹林を調べた。その結果、東広島市安芸津町でも本種の生育を新たに確認した（図 1D, E）。この常緑広葉樹林は広さが約 4 ha あり、呉市の生育地と同様にコバンモチ *Elaeocarpus japonicus* Siebold et Zucc. が多く自生していた。本種は、樹林内の約 100 m² の範囲に 20 株、延べ 34 花茎を確認した。生育地は東向きの斜面で、呉市の生育地に比べてやや急な勾配だった。生育地付近の高木層の主な種としてはコバンモチのほかにはツブラジイ *Castanopsis cuspidata* (Thunb.) Schottky, ヤマモモ *Myrica rubra* Siebold et Zucc., クロキ *Symplocos kuroki* Nagam., および植林されたとされるスギ *Cryptomeria japonica* (L.f.) D.Don があつた。亜高木層から低木層にかけては、サカキ *Cleyera japonica* Thunb., カクレミノ *Dendropanax trifidus* (Thunb.) Makino ex H.Hara, ヤブツバキ *Camellia japonica* L., アラカシ *Quercus glauca* Thunb. が出現した。また、すべての階層でコバンモチが確認され、安定したコバンモチ群落であると考えられた。

今回、広島県内では 2 カ所目となるウスキムヨウランの自生地を確認した。2 カ所ともに高木層

* Contribution from the Hiroshima Botanical Garden No.114

1) 広島県広島市安佐南区 Asaminami-ku, Hiroshima City, Hiroshima Prefecture, 731-0124, Japan
Bulletin of the Hiroshima Botanical Garden, No. 36 : 35-40, 2024.

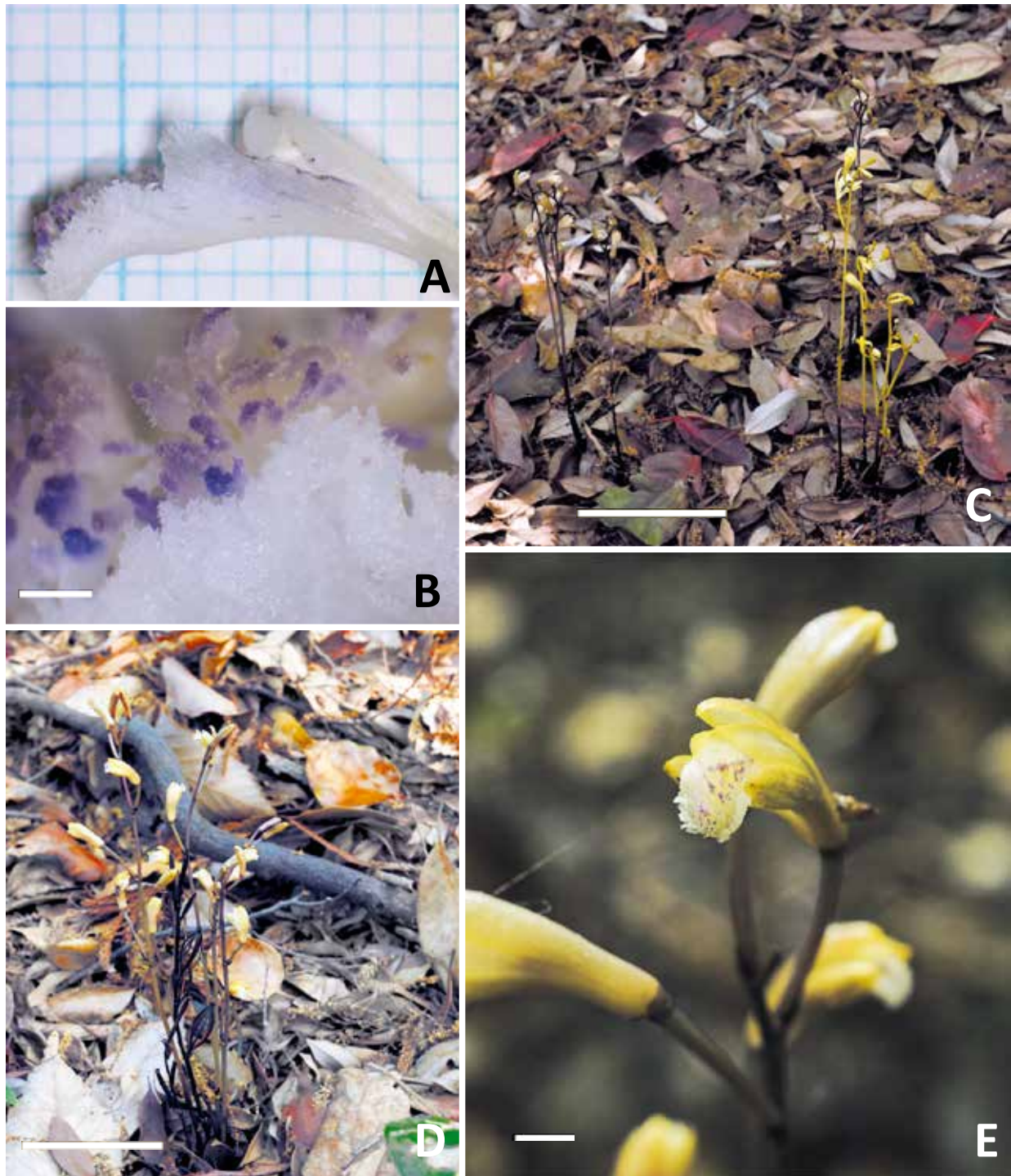


図1. ウスキムヨウラン *Lecanorchis kiusiana* Tuyama

A: 唇弁とずい柱, B: 唇弁中央裂片の縁(白色部)と中央部にある毛の先端(紫部), C: 呉市安浦町で確認された黄花個体(右)と通常の薄茶色白花個体(左): 唇弁とずい柱, D: 東広島市安芸津町の生育状況, E: 東広島市安芸津町に生育する通常個体の花, スケールバーは1 mm (B), 5 cm (C, D), 1 cm (E)

Figure 1. *Lecanorchis kiusiana* Tuyama. A: Labellum and column, B: Margin of the central lobes of the labellum (white part) and tip of the hair in the centre (purple part), C: Yellow-flowered individual (right) and normal pale brown-flowered individual (left) in Yasuuracho, Kure City, D: Individual newly confirmed at Akitsucho, Higashihiroshima City and its habitat, E: Normal pale brown-flowered individual in Akitsucho, Higashihiroshima City. Scale bar is 1 mm, 5 cm, and 1 cm in B, C and D, and E, respectively.

にコバンモチが出現し、1 ha 以上の広さがある自然度の高い常緑広葉樹林だった。広島県内ではこのような林分は希だが、中西部の島嶼部や沿岸部にある常緑樹林内では新たな自生地が発見される可能性がある。なお、本種の和名としてウスギムヨウランを標準、ウスギムヨウランを別名とする見解があるが、本種を記載した Tuyama (1955) は、ウスギムヨウラン（淡黄無葉蘭）の名を与えたと明記しているので、ウスギムヨウランを用いることとした。

ツクシゼリ（セリ科）

2022 年に植物写真家のいがりまさし氏から、広島県廿日市市大野町経小屋林道沿いに生えているセリ科の植物は、ツクシゼリ *Angelica longiradiata* (Maxim.) Kitag. var. *longiradiata* ではないかとの指摘があった。これまで広島県ではツクシゼリの生育は確認されていなかったため、現地で調査を行い、葉や分果の形態を類似のカワラボウフウ *Peucedanum terebinthaceum* (Fisch. ex Trevir.) Fisch. ex Turcz. と比較観察した結果、ツクシゼリであることを確認した（図 2A, B, D）。

本種は、本州（岡山県）、九州、屋久島に分布し、山地の草原や岩場に生える多年生草本である（鈴木 2017）。自生地がある福岡県では生育地が限られ近年生育が確認されていないため絶滅危惧 IA 類に（福岡県 2011）、大分県と岡山県では生育地の環境が悪化、あるいは悪化が危惧される状況にあるなどの理由で準絶滅危惧種に選定されている（大分県 2021；岡山県 2020）。廿日市市大野の生育地は、林道整備のために切通した斜面下部や路傍にある草地で、2022 年 10 月の調査時には、約 1.5 km の区間の 5 カ所に、合計およそ 140 個体があり、実生と思われる幼植物も見られた。

著者は、以前にもこの植物を採集したことがあったが、その時はカワラボウフウと誤認していた。そこで、これまで県内で採集されたカワラボウフウとされる標本を確認したところ、広島大学附属宮島自然植物実験所に、同所で採集された同種の標本（T. Seki, Nov. 19, 1995）が保管されていた。この標本には、「のり面植栽に混入したシラカワボウフウ *Peucedanum terebinthaceum* (Fisch. ex Trevir.) Fisch. ex Turcz. var. *deltoideum* Makino ではないか」とのコメントが付されていた。廿日市市によるとこの林道は、1959 年から 1962 年にか

けて整備されたものだが、現在も山頂の展望台に行く一般車両が利用するため未舗装ながら良く管理されている。このような環境は、他県のツクシゼリの生育地とは大きく異なっているので、関が標本に指摘しているように、この植物が人為的に持ち込まれた可能性がある。本州では 2 例目となるツクシゼリの生育地だが、本来の自生かどうかを明らかにする必要がある。

本種の情報をいただいていたいがりまさし氏と岡山県の狩山俊悟氏、林道に関する情報を調べていただいた廿日市市の横西宏介氏、標本調査を許可してくださった広島大学瀬戸内 CN 国際共同研究センターグリーンイノベーション部門宮島自然植物実験所の坪田博美博士に感謝します。

証拠標本（広島市植物公園で保管）：ツクシゼリ (tsr-221007, tsr-221008, tsr-221009)

オクシモハギ（マメ科）

大橋（2003）によると、オクシモハギ *Lespedeza davidii* Franch. は、中国原産のマメ科の半低木で、高さ 3 m になる。頂小葉は長さ 13 cm、幅 10 cm に達し、両面に伏した毛を密生するため帯白色に見える大きな葉と、大型の花序を付けた姿は独特で、他のハギ類からよく区別できる（図 3A）。また、枝には稜があり、萼には長毛が密生して萼齒が細長いなどの特徴がある（図 3B, C）。本種の日本への帰化は、1999 年に山口県玖珂郡美和町（当時）で真崎博氏により初めて発見、報告され、その後、愛媛県、香川県、宮崎県、新潟県でも帰化の記録がある（五百川・大橋 2007；大橋ほか 2003；太刀掛・中村 2007）。大橋ほか（2003）は、本種の帰化の原因として、のり面緑化のための種子散布をあげているほか、本種を「置霜萩」と名付けた前川文夫博士が戦前に初めて中国から導入したことや、1990 年代には園芸店で苗が販売されていたことなども紹介している。

著者は、2022 年 10 月に廿日市市大野で本種が約 10 個体生育しているのを確認した。広島県では初めての記録と思われる。生育地は県道栗谷大野線の妹背の滝への降り口付近で、崩れたのり面を、植生土嚢を使って修復したと思われる場所であり、工事に伴う帰化であろう。周辺には同様の工事を行った場所があるが、本種の生育を確認したのは、これまでのところ 1 カ所である。しかしながら、本種が自然分布域よりも北にあたる新潟県が多雪



図2. ツクシゼリ *Angelica longiradiata* (Maxim.) Kitag. var. *longiradiata* (A, B, D) とカワラボウフウ *Peucedanum terebinthaceum* (Fisch. ex Trevir.) Fisch. ex Turcz. (C, E) A: 生育状況, B, C: 果実, D, E: 分果の横断面, スケールバーはすべて 1 mm
 Figure 2. *Angelica longiradiata* (Maxim.) Kitag. var. *longiradiata* (A, B, D) and *Peucedanum terebinthaceum* (Fisch. ex Trevir.) Fisch. ex Turcz. (C, E). A: Individual and its habitat, B, C: Fruits, D, E: Section of the mericarp. All scale bars are 1 mm.



図3. オクシモハギ *Lespedeza davidii* Franch. A: 生育状況, B: 枝の稜 (乾燥標本の矢印部), C: 萼の毛と長い萼歯 (矢印部), スケールバーは1 cm (B), 5 mm (C)

Figure 3. *Lespedeza davidii* Franch. A: Individual and its habitat, B: Angular stem (dry specimen, arrow), C: Hair of calyx and long calyx teeth (arrow). Scale bar is 1 cm and 5 mm in B and C, respectively.

地帯でも生育可能であることが報告されていることから（五百川・大橋 2008），今後は広島県内の他の地域へ分布を拡大する可能性がある．このため，のり面緑化等の工事を行う際は注意が必要である．

証拠標本（広島市植物公園で保管）：オクシモハギ（tsr-221006）

引用文献

- 福岡県 2011. 福岡県の希少野生生物－福岡県レッドデータブック改訂版 2011－. <https://biodiversity.pref.fukuoka.lg.jp/rdb/rdb/detail/201100235> (2023 年 10 月 26 日閲覧)
- 五百川裕・大橋広好 2007. マメ科オクシモハギの多雪地への帰化. 植物研究雑誌. 82: 175-177. https://doi.org/10.51033/jjapbot.82_3_9969
- 大橋広好 2003. マメ科. 清水建美（編）. 日本の帰化植物. pp102-124. 平凡社, 東京.
- 大橋広好・根本智行・伊藤隆之 2003. ハギ属の帰化植物 4 種. 植物研究雑誌. 78: 50-54. https://doi.org/10.51033/jjapbot.78_1_9638
- 大分県 2022. レッドデータブックおおいた 2022. <https://www.rdb-oita.jp/data/16728/> (2023 年 10 月 26 日閲覧)
- 岡山県自然環境課 2020. 岡山県版レッドデータブック 2020. (2023 年 6 月 13 日更新) 1. 維管束植物. https://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/656841_5702311_misc.pdf (2023 年 10 月 26 日閲覧)
- 世羅徹哉・藤富信之・大沼みお・末次健司 2023. ウスキムヨウラン（ラン科）を広島県に記録する. 植物地理・分類研究. 71: 57-60.
- 鈴木浩司 2017. セリ科. 大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩（編）. 改訂新版日本の野生植物 5. pp. 384-401. 平凡社, 東京.
- 太刀掛優・中村慎吾（編著）2007. 改訂増補帰化植物便覧. 676 pp. 比婆科学教育振興会, 広島県.
- Tuyama, T. 1955. A new saprophytic orchid, *Lecanorchis kiusiana*. Journ. Jap. Bot. 30: 181-187.
- 山口県自然保護課 2019. レッドデータブックやまぐち 2019. <https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/uploaded/attachment/53759.pdf> (2023 年 9 月 1 日閲覧).

要旨

広島県で 2 カ所目のウスキムヨウラン *Lecanorchis kiusiana* Tuyama, 初記録となるツクシゼリ *Angelica longiradiata* (Maxim.) Kitag. およびオクシモハギ *Lespedeza davidii* Franch. を記録する.